

【専門分野】

科目名	診療関連援助技術 I (診療に伴う援助技術：与薬)	講師名	専任教員	学 年	1	履 修 期	第 2 学期					
単 位	1 単位											
時間数	30 時間											
講師実務経験	看護師としての臨床経験あり。											
授業概要	薬物療法を受ける対象への援助技術を習得する。											
授業科目目標	1. 与薬の基礎知識、与薬の方法、看護師の役割が理解できる。 2. 注射の基本技術を習得できる。 3. 輸液療法を受ける患者の看護が理解できる。 4. 輸液ポンプ・シリンジポンプ、輸血管理が理解できる。											
授業計画	1 回：与薬と看護師の役割 1) 与薬とは 2) 与薬の基礎知識 3) 薬物療法における看護師の役割 2 回：与薬の援助 1) 経口与薬、口腔内与薬、 2) 吸入、点眼、点鼻、経皮的与薬、直腸内与薬 3～5 回：注射の援助① 1) 注射の基礎知識 2) 皮下注射、皮内注射、筋肉内注射 6～7 回：筋肉内注射の実際 8 回：輸液療法を受ける患者の看護 1) 輸液療法の目的・種類 2) 輸液療法による日常生活への影響 3) 患者の看護 9 回：注射の援助② 1) 静脈内注射・点滴静脈内注射 10～11 回：点滴静脈内注射の実際 12～13 回：注射の援助③ 1) 中心静脈カテーテル法 2) 輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い 14～15 回：輸血 1) 輸血管理 15 回：終了試験					講義	講義	講義	演習 講義	講義	演習 講義・演習	講義
評価方法	筆記試験											
テキスト	1. 系統看護学講座 専門 I 基礎看護学技術 II 基礎看護学 [3], 医学書院。 2. 竹尾恵子他：看護技術プラクティス, 第 4 版, 学研。											
学生への メッセージ	安全かつ適切に与薬するための知識と技術を習得します。注射は身体侵襲を伴い、正確性・安全性が必要ですので、集中力を高めて真剣に取り組みましょう。さらに、対象の不安や緊張といった心理面への配慮についても考えていきましょう。 <b>【関連科目】解剖生理学Ⅱ・Ⅲ、臨床治療論、薬理学、共通基本技術Ⅱ</b>											